

H23年 10月20日

## プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2012年4月30日】

団体名 社会福祉法人 慈生会 ベトレヘム学園

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

### 1. プロジェクト名

職員団結向上研修プログラム

### 2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

現在の社会的養護の課題である難しい課題を抱えている入所児童、保護者に適切に対応するためには、職員によるチームケアが必要であり、効果を上げると考えています。そのためには職員が同一の方針と支援方法を行っているか確認することが求められます。この宿泊研修を通して、学園内でのチーム作り、学園が行っている事業の確認を行い、日頃の児童支援の再確認をすることを目的とします。

### 3. プロジェクトの内容 300文字まで

①「東京都の児童福祉の政策・動向について知る」現在の児童福祉の動向から、ベトレヘム学園ではどのような政策を利用しているのか、児童養護にどのように反映されているのかを知る機会となりました。②「専門機能強化型施設の取り組み(報告会)」学園の専門機能強化型児童養護施設委員会が、学園が行っている同事業の内容を説明、報告を行いました。③「児童養護施設の職員として必要なこと」ルーテル学院大学の尾崎眞三氏(学園の外部スーパーバイザーでもある)より講義。自分の傾向、他人から見た自分などを知り、施設職員にとって、必要なことを学びました。④「職員ハンドブックの読み合わせ」単なる読み合わせではなく、自分たちで仮にハンドブックを作り直す作業を行いました。

### 4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

《工夫点》全体を通して、受け身的な講義ではなく、自ら課題を発掘できるよう、疑問を持てるよう、宿題、グループワークなどを設けました。具体的には、学園の養護(事業)計画書の支援、運営に関するところを読み、根拠となる法律を探してくるという宿題。自分の傾向、他人から見た自分をグループワークで発見する作業。グループで、ハンドブックの内容を取り上げ、活かしたいところ、変えた方がよいと考えられるところを挙げ、他の人に説明できるようにわかりやすく発表を行いました。《効果》研修前に事前学習に身を入れている姿が見られたり、グループ討議が活発に行われ、皆の前での発表に対しての抵抗感が少なくなってきたのではないかと感じられました。

### 5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

「宿泊研修ということで、日常から離れて、じっくり目の前にあることに向き合えた」、「普段、話すことの少ない職員との交流ができた」という感想、「内容が今、知るべきこと」と捉えた職員もいました。日頃、日常業務の中に埋没してまいがちな視点を掘り起し、新たな思いを感じられたのではないかと思います。研修への参加姿勢が自主的、能動的に行われることが、その人のレベルを上げることにつながると思います。少しでもその役割を今回の研修ができたとしたら、喜ばしいことであると感じています。

### 6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし



職員宿泊研修 (1班 6月23,24日  
2班 7月7,8日)

